

1 8 春闘大敗北の中で J R 東労組再建に向け苦闘している仲間を批判し 1 2 地本の団結を嘘とゴマカシで破壊する「真実の声」を許さない見解

J R 東労組中央本部は、インターネット上において組織内の関係者しか知りえない情報を元に一部を切り取り捏造し、匿名で投稿したものを掲載し続けている「真実の声」を組織破壊と断定した。そして、そこへの情報提供者は規約 6 0 条（制裁）に該当し制裁申請に値することを明確にした。

私たちは 1 8 春闘大敗北の中で、会社からのパワハラや不当労働行為と思われる事象と日々たたかい、組織の再建に向けて離脱した組合員の再加入を目指し奮闘している。そのたたかいを「残留執行部」や「御用組合」とレッテル張りし、自らの自己保身の為に嘘とゴマカシの投稿を続けている「真実の声」を絶対に許すことはできない。

この間、1 8 春闘方針の誤りによって生み出した大量脱退に向き合い、組合員の「方針への疑念」や「方針を押し付けられている」という声を真剣に受け止めてきた。そして、これまでのたたかいを反省し、苦しい中から自らに矢印を向けて総括した中で臨時大会の開催要求を行ってきたのである。しかし「真実の声」では『スト権の議論がほとんどされていなかった盛岡や仙台、横浜、そして大宮に臨時大会請求をさせた』

(2018. 10. 11) と書かれている。これを見た人たちからは「事実と違うゴマカシの投稿を許すことはできない」「職場の苦しいたたかいを無いものにして嘘で宣伝する『真実の声』は組織破壊以外の何ものでもない」という怒りに満ちた声が地本へ届いている。

この間、私たち大宮地本は職場から組合員と共にたたかいを創り出してきた。不当労働行為と思われる事象に対して、事実関係を明確にして当該の組合員と共に団体交渉を具体的に創ってきた。そして人事部長名で「管理者の皆さんへ」という文書が発出され「職場において、不当労働行為と評価されるような事実が確認された場合には、コンプライアンス上の観点から、会社の責任が問われ、会社として関係者の責任を問わざるを得ない」と管理者へ注意喚起されたようだ。しかし、いまだ職場ではパワハラ等が行われていると報告を受けている。更に職場と連携し、J R 東日本をブラック企業として社会的信用を失うような会社にさせない為、労働組合としてたたかいを強化していく。そのためにも、事実を意図的に捻じ曲げ嘘とゴマカシで 1 2 地本の団結を破壊する「真実の声」は許すことができない。大宮地本としても組織破壊であることを明確にする。

この「真実の声」については、J R 東労組第 3 6 回定期大会でも発言が出され、八王子地本の元中央執行委員からレールクラブ経由で他地本へも拡大されている事が明らかになった。そして、調査することが決定しているが一切進展がないそうである。もし意図的に調査を行わないのであれば、自らも「真実の声」と同じ考えを持ち 1 2 地本の団結を壊している組織破壊者と言われてもやむを得ない。

私たちは、あらゆる組織破壊を許さない。そして職場から J R 東労組の再建に向けて奮闘している仲間を嘘とゴマカシでレッテル張りして、組織の団結を自らの自己保身の為に壊すものを絶対に許さない。あらゆる攻撃に屈することなく、職場でたたかう仲間と共に、新生 J R 東労組を創り出していく決意である。

2 0 1 8 年 1 1 月 9 日

J R 東労組大宮地方本部